

順調なスタートを切れた第一四半期 この夏を乗り越えた先にあるものは？



第1四半期決算発表 EBIT は想定通り

7月末に航空大手2社の第1四半期(Q1)決算が出そろいました。旺盛な訪日客需要を背景に、営業収入は両者ともにQ1として過去最高を更新。一方で、燃油費や人件費の増加もあり増収減益となりました。

第1四半期 経営成績

(単位:億円)

科目	JALグループ			ANAグループ		
	2023	2024	前年差	2023	2024	前年差
営業収入	3,814	4,240	+426	4,610	5,167	+557
営業費用	3,530	4,061	+531	4,172	4,864	+691
EBIT/営業利益	313	221	▲ 92	437	303	▲ 134
親会社株主に帰属する 四半期利益	230	139	▲ 91	306	246	▲ 59

組合に対するQ1決算説明会は8月14日に4労組合同で行われますが、先日の決算発表の場で、鳥取社長は「EBITは当初計画を達成した」と述べています。破たん後最高の利益を達成した2018年度でもQ1の営業利益は249億円と、通期の14.1%ほどでしたから、想定内ということでしょう。営業費用は昨年と比較すると確かに増加しています。しかし、今年度の業績見通しを発表するときに市況前提も示しています。

	FY24前提	第1四半期 実績	FY24前提 対比	前年同期比
シンガポールケロン(USD/bbl)	110.0	100.2	▲ 8.9%	+ 5.8%
ドバイ原油(USD/bbl)	90.0	85.8	▲ 4.7%	+ 8.7%
為替(円/USD)	145.0	153.7	+ 6.0%	+ 14.1%

前年同期比で見ると燃油も為替も上がっていますが、前提からは大きく外れていません。それでEBITの目標は達成しているものの、収入面、特に国内旅客数が想定に達していないようです。

お盆の予約状況は昨年以上に

JALの今後の課題は国内旅客数の増加です。Q1では団体旅客が伸び悩みましたが、夏の繁忙期の予約状況を見ると、国内線の利用も増加し、多くのお客様にご利用いただける見込みです。

2024夏期繁忙期予約状況 (8/09~8/18)

(単位:席,人)

	会社	提供座席	(前年比)	予約数	(前年比)	予約率	(前年差)
国際	ANA	283,140	109.4%	224,635	110.3%	79.3%	+1.6pt
	JAL	247,725	107.1%	211,016	110.5%	85.2%	+2.7pt
国内	ANA	1,790,116	102.1%	1,464,017	104.2%	81.8%	+1.6pt
	JAL	1,357,177	98.6%	1,073,569	100.5%	79.1%	+1.5pt

第2四半期の頑張りを年末一時金に

年末一時金は、11月中旬まで行われる年末交渉で決まりますが、会社が業績連動で提案している内容は「年末は2.0ヵ月、ただし上期決算時にEBITが1,400億円以上見通せる場合は2.5ヵ月」というものです。「Q1のEBITが221億円なのに1,400億円以上なんて」と思われるかもしれませんが、航空会社のQ2は稼ぎ時であり、コロナ前の2018年度は通期の40.8%を占めていました。この夏の繁忙期と9月に2回ある三連休に大きな災害に遭わないことを祈りつつ、日々の安全運航を支えていけば届かないわけではありません。ただし、通期の目標EBITが1,700億円で、年間一時金が期末を合わせて5.5ヵ月分であるならば、年末2.5ヵ月に固執する必要はないでしょう。あまり細かい業績連動にこだわらず、社員のモチベーションを高める工夫があった方が、社員が生き生きと楽しく働けるJALに変わるでしょう。

スピード感を持った熱中症対策を

今年の夏も猛暑ですが、2019年8月のこの紙面に「羽田空港近くの工事現場では、ファン付きベストが使われています」という内容の記事を記載しました。その後、JALECでもトライアルが続き、今年ようやく本運用になりました。とはいえ、数に限りがあるため不便さは残っています。



ANA は整備・グラハン1万人に貸与

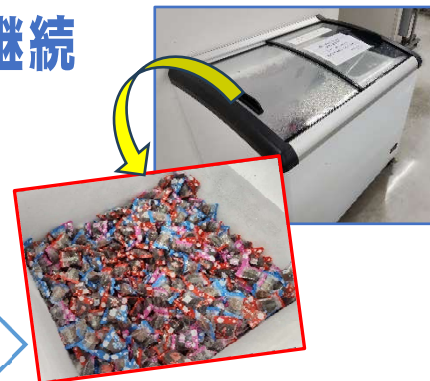


Aviation Wire のネット記事には、「ファン付きベストの導入対象は、ANA グループが就航する国内約 50 空港で、対象人数はグラハンスタッフが約 7000 人、整備士が約 3600 人。今年6月24日から整備士への個人貸与が始まり、7月1日からはグラハン部門にも導入された。」と書かれています。本当に1万人以上の作業員全員に貸与されたかはわかりませんが、ANA とファン付きベストを製造しているミドリ安全の宣伝効果はかなり大きいと言えます。

JALEC でトライアルしたときには、高く評価する人もいれば、全然使えないという人もいました。残念ながら、総合的に見てあまり評判がよくなかったため、採用見送りとなり今年の夏を迎えました。組合としては、使いたい人のために、工具室にある程度の数を用意して借りられるようにしたらどうかと訴えていました。結果的に要求通りになっていますが、全部クリーニングに出て戻ってきていないと使いたい人が使えないので、数量はこれからの検討課題です。一方、JGS では整備より先にオリジナルのファン付きベストを製造し、今年は最新のペルチェベストをトライアルしています。スピード感は各社で違いがあるようです。

一口アイスの差し入れは継続

JALEC 羽田の職場では、今年もセンター長の差し入れで、一口アイスのケースが設置されています。昨年も提供していただきましたが、こちらは評判が良く「通年で置いてほしい」という声もありました。



譲り合ってお返し上がりください

私たちは「センター長の気持ちはとてもありがたいが、会社として費用を負担するべき」と主張し、8月からは JALEC が経費として負担することになりました。暑い現場から戻ってきたときにホッと一息つけるのはありがたいですが、熱中症対策としてまだできることはあるはずですが、飲料メーカーによる企業向け自動販売機のサービスも充実しており、経口補水液ではなく、プロ仕様の熱中症対策飲料もあります。土木、建築、製造業での導入が進んでいますが、JALEC でも一般化した後に導入されるのでしょうか？

今年も集合形式で開催

第16期日本航空ユニオン定期大会

変わります！人に寄り添う JAL に

定期大会議案書

第15期 運動総括案
第16期 運動方針案



2024年9月

航空連 日本航空ユニオン

9月5日の定期大会後、日本航空ユニオンの新しい期が始まります。職場に大会議案書が届くまでにお時間をいただきますが、すでに JLU の WEB サイトの組合員専用ページからダウンロードできます。大会通知ニュース (JLU ニュース 962) と合わせて、よく読んでいただき、参加される大会代議員に質問・意見を集約してください。年末闘争で取り組んでほしいこと、組織の課題、職場の様々な問題について一日かけて議論します。大会でのみなさんの声が年末、来春闘に活かされます。充実した16期になるよう、引き続きご協力をお願いします。